

展示会「不思議!? 解剖図」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月5日(火)から5月10日(金)までの間、第3回展示会「不思議!? 解剖図-ヴェサリウスから奈良坂源一郎まで-」を開催しました。同館内にある医学部史料室の所蔵品の中から古医書、絵画等を展示し、解剖図の美しさ、不思議さを示しました。

長く権威とされていたギリシアの医学者ガレノスの学説



展示の様子

の誤りを指摘し、「近代解剖学の父」と呼ばれる16世紀のベルギーの解剖学者ヴェサリウスが著した「人体の構造に関する七つの本（ファブリカ）梗概」の注釈本から、日本における近代医学の発展の契機となった杉田玄白の「解体新書」、華岡青洲の手術図に影響を受けて愛知郡御器所村（現在の名古屋市昭和区）の医師長東宗元によって描かれた「乳癌手術の図」、賀川流産科の基礎を確立した賀川玄迪の「産論翼」、さらに愛知医学校における解剖学等の教育により本学医学部の礎を築いた奈良坂源一郎による戯画の掛軸「踊る骸骨」まで、多彩な展示により解剖図の面白さを紹介しました。

また、関連資料として、江戸時代の経絡人形を初めて展示しました。経絡人形は、経絡（動脈と静脈）や経穴（つぼ）を書き込む人体模型で、江戸中期から紙や木で作られ、漢方医学に利用されました。医学部史料室に所蔵する人形は、経絡が記入されていないもので大変珍しく、多くの来館者の関心を集めていました。

就学前の子どもから年配の方まで、様々な方が来館し、難しい解剖図をわかりやすく展示してであると好評を得ました。

第50回博物館コンサートを開催

●博物館

博物館は、4月27日(土)、同館展示室において、やまのて音楽祭との共催で、第50回博物館コンサート「爽やかな風にのせて～ミュージックベルの調べ」を開催しました。

今回は、6人組のミュージックベルグループ Sonnette (ソネット) によって、1時間にわたって全14曲が演奏されました。演奏楽器のミュージックベルは、良く知られて

いるハンドベルを参考として日本で開発された楽器で、1人で40個以上のベルを扱います。同館で開催されている特別展「くじら クジラ 鯨」に合わせて海にちなんだ「Under The Sea」という曲等を演奏したり、途中でパートごとの演奏をして曲名を当てるクイズコーナーを催したりするなどし、コンサートは聴衆をひきこみながら進行されました。

また今回は、平成13年に初めて同コンサートが開かれてから、ちょうど50回目を迎えました。その間、地域の方にも愛され、聴衆も最初の数十人から近年は毎回200名を超えるようになりました。さらに、名古屋大学地域貢献特別支援事業からの助成も受けるようになり、同コンサートを途切れることなく開催することができています。

51回目となる次回は、9月11日(水)14時よりハーブとヴァイオラによるデュオコンサートを開催する予定です。



演奏の様子